

農村の健康管理メモ

喫煙と飲酒の頻度について

富山県農村医学研究会 豊田文一

早森貴史子

昭和56年度、富山県下農協職員の健康管理に当たり、個々面接の方式により、喫煙と飲酒の頻度について調査し、その実態について報告し、一つの資料として提示する。なお被検者のうち、男子の82.6%、女子の72.6%はそれぞれ耕作地を保有し(昭和55年調)、かつその他の大部分は農村地域に居住するものである。

1. 喫煙について

調査人員は、男子1,713名、女子1,197名、合計2,910名である。その頻度は第1表に示す通り、男子においては29才以下の若年者に、喫煙しないものの比率は少なく、30才以上では無喫煙者は、急激に増加している。

第1表 喫煙の頻度(男)

程度 \ 年齢	19才以下	20~29才	30~39才	40~49才	50才以上	合計
喫煙せず	15 27.2%	115 23.3%	169 31.8%	130 35.0%	87 33.1%	561 30.1%
10本以下	9 16.4%	50 10.1%	34 6.3%	19 5.1%	33 12.5%	145 8.4%
11~20本	27 49.1%	212 43.0%	180 33.8%	110 29.6%	95 36.1%	624 36.4%
21~30本	4 7.3%	65 13.2%	79 14.8%	61 16.4%	35 13.3%	244 14.2%
31~40本		43 8.4%	54 10.2%	43 11.6%	11 4.2%	151 8.8%
41本以上		8 1.6%	16 3.0%	8 2.2%	1 0.4%	33 1.9%
合計	55 3.2%	493 28.8%	532 31.1%	371 21.7%	263 15.3%	1,713

その喫煙量の最も頻度の高いのは、11本~20本で36.4%、それ以上のいわゆる「ヘビースモーカー」といえるものが、24.9%も認められる。年齢的には、とくに特徴的のことはない。なお女性の喫煙者は、10本以下僅かに

8名、11~20本2名、年齢的には、29才以下9名、50才以上1名であり、0.8%に当たり、皆無といってよい。

さて喫煙の害について「有害無益」と宣伝され、疫学的に発癌と密接な関係ありとされつつも男子の69.9%は喫煙者である。10年前までは、男子では、喫煙率85%前後、女子では15%前後といわれていた。

昭和56年、日本専売公社の調査、13,300人の成人男女を対象としたもので、男性の喫煙率70.8%、女性のそれは15.3%、男女合わせて42.2%となった。昭和50年代前半の水準、男性73~76%、女性15~16%であり、男性は漸次減少の傾向にあるが、女性ではその傾向がみられず、とくに20才代男性が76.4%、女性では17.4%となっている。若い女性では、一種のアクセサリとして、気軽に煙草を口にする機会が多くなっていると専売公社では解している。「毎日吸う」人の1日当たりの喫煙本数は、男性25本、女性15.9本といっている。これと私どもの調査した農村における場合と比較してみると、喫煙率は、男性では、ほぼ同率、女性では上述したように皆無に等しい。なお20才代では、全国平均76.4%、富山県農村では76.7%で、全く同率である。

最近煙草離れの傾向があるといわれるものの果して如何なる推移を示すか見守って行きたいと思っている。

2. 飲酒について

飲酒という定義をどこにおくか、それぞれの考え方によってちがう。私どもは、一応常習性飲酒者、すなわち毎日晩酌をするものと

した。ただここに0.9合以下としたものうち毎日飲酒するものもあるし、1週に2~4回飲むというものを、1週の量を換算してあらわした。これも飲酒者のうちに含めた。なおビール、ウィスキーは、そのアルコールのカロリー量に換算し算出し、酒1合=ビール $\frac{2}{3}$ 本=ウィスキー・グラス一杯で、約200カロリーを標準とした。かつ宴会など以外は飲まないというものは、飲酒せずとした。これも個々面接により調査し、男子1,737名、女子1,201名、合計2,938名である。

その成績について第2表に示す。

第2表 飲酒の頻度(男)

程度	年令				合 計
	29才以下	30~39才	40~49才	50才以上	
飲酒せず	249 49.3%	190 36.0%	123 30.6%	91 29.9%	653 37.6%
0.9合以下	38 7.5%	22 4.2%	27 6.7%	10 3.3%	97 5.6%
1.0~1.9合	54 10.7%	193 36.6%	137 34.1%	110 36.2%	494 28.4%
2.0~2.9合	45 8.9%	103 19.5%	89 22.1%	71 23.4%	308 17.7%
3.0~3.9合	17 3.4%	23 4.4%	23 5.7%	20 6.1%	83 4.8%
4.0合以上	2 0.4%	7 1.3%	3 0.7%	2 0.7%	14 0.8%
合 計	505 29.1%	528 30.4%	402 23.1%	304 17.5%	1,737

男子で飲酒せずというもの37.6%、飲酒で最も頻度の高いのは1.0~1.9合、28.4%、次で2.0~2.9合、17.7%、それ以上の量は激減している。ただし毎日5合というもの5名、最高6合は1名いた。年令的には、29才以下の若年層は、約半数49.3%は飲酒せず、しかし

30才以上になると急激に減少している。すなわち年令とともに飲酒の比率は上昇している。また0.9合以下は、29才以下の若年層と高年層との差は余りないが、1.0合~1.9合、2.0合~2.9合は、30才以上で、急にその比率が上昇している。

草野亮氏らは、富山県民の飲酒実態——学校教師の場合——(富山県医報808号、昭和56年)の報告によると、男子では、毎日飲むものは25%、週4回以上、18%、週1~3日、31%となっている。すなわち私どもの調査にあてはめると74%に当たる。ただし、毎日飲酒についてみると、私どもの飲酒者としたものの62.4%で学校教師の場合よりかなり低率である。また草野氏らの報告に引用してある全国統計、ほとんどのまない、やめた、のまないを飲酒せずとすると31.0%、富山県農村における飲酒しないものの比率37.6%で、富山県農村では、全国平均に比してやや高率、他方飲酒率は、全国平均69.0%、富山県農村62.4%で、低率である。

また女子では、1,201名中、0.9合以下2名、1.0合~1.9合3名と5名であった。すなわち0.4%で、皆無といってよい。なお富山県内女性教師の場合、飲酒するもの11%、飲酒しないもの89%、全国平均では、10.5%、飲酒しないもの89.5%である。

以上の実態からみると、富山県農村における飲酒率は、富山県下教師に比べても、全国的の平均に比べても低率である。

私どもは、今後、喫煙と飲酒と健康状態についての関連性を検討したいと思っている。